



＜第10号＞
平成27年2月号

萩市復興だより

～ 助け合い 復興の先には 光あり ～

発行・編集
萩市災害復興局
TEL 08387-6-2214

一昨年の豪雨災害から1年6ヶ月が経過しました。厳しい寒さの中にも春の気配を感じる日々となっています。復旧・復興に向け進む、萩市東部の今を紹介します。

小川コミュニティセンター（仮称）建設事業の進捗状況について

小川コミュニティセンター（仮称）の建設は、現在、鉄骨が組み上がりその姿を現しています。建設工事の状況は、工程の約36%（H27.1月末現在）に達し予定どおり進捗しています。

今後は、本年7月の完成に向け屋根の瓦葺きや外壁・内装などの工事が進むところです。

「7.28豪雨災害」の新規建設事業として取り組んでいる本施設は、支所機能に田万川第2分団消防器庫など防災拠点の機能を加え、併せて小川地区の農林産物や地域資源を活用した交流施設の場となる複合施設として整備され、完成後は小川地区の新たなシンボルとなるよう期待されています。



建設現場の様子

開館に向け進む 須佐歴史民俗資料館改修工事

一昨年の豪雨災害で被災した須佐歴史民俗資料館の改修工事が行われています。

「7.28豪雨災害」では、本館で約90cm、別館の「益田館」は2m50cmの濁流に飲み込まれ、施設の浸水や破損、保管資料の流出など大きな被害を受け、地域の内外を問わず多くのボランティアの皆さんから、流入土砂の搬出など応急復旧作業や資料の搬出・清掃などで、大変なご支援をいただきました。



展示室（完成イメージ）

その後、須佐歴史民俗資料館（展示室）の新たな設計や資料の整理・復元などを行い、昨年の10月から益田館（別館）、また昨年12月から須佐歴史民俗資料館（本館）の改修工事に着手しています。

須佐歴史民俗資料館（本館）は、本年3月に改修工事や展示施設・資料の整備などを完了し、4月からのリニューアルオープンを目指し工事等の整備が進められているところです。

小川地区でトリムマラソン大会開催 ～復興への力強い足音となって～

1月18日（日）小川小学校をスタート・ゴールに小川地区コミュニティ協議会の主催で、第3回トリムマラソン大会が開催されました。

自分の体力にあった距離を選び、無理せず気楽に参加することで、自らの健康づくりと体力の増進を図ることを目的に毎年開催されます。

「1kmの部」から「5kmの部」のコースに小学生から一般まで125名の参加があり、コースを走る参加者の力走は、復興への力強い足音となって駆け抜けて行きました。



「2kmの部」スタート

復興に向け「スイセンの花プロジェクト」

7. 28豪雨災害特別復興事業の一環として、むつみ地域の県道萩津和野線で四季を通じた花の植栽による「フラワーロード」づくりを目指して「スイセンの花プロジェクト」が行われています。



球根の植付け作業（平成26年10月）

咲き始めた ▶
「スイセン」の花
（平成27年1月）



昨年10月末、スイセンの球根5,000球がむつみコミュニティ協議会主催のもと、約80名の参加により「フラワーロード」への植え付け作業が行われました。

現在、早咲きのスイセンが白い花を咲かせ、復興に向け県道を行きかうダンプトラックや往来する地域の人々を見守っています。

「りんごのみぞれジャム」最優秀賞に！

「ふるさと特産加工開発コンクール」の最優秀賞（知事賞）に平山台果樹生産組合女性部、山木純子さん（小川8区）の「りんごのみぞれジャム」が選ばれました。

このコンクールは、山口県産の農林水産物を利用し、伝統的な技術に新しい技術や創意工夫を加えて研究開発された加工品が対象で、山口県生活改善実行グループ連絡協議会と山口県の主催により、応募52点の中から選ばれたものです。

平山台で山木さんが経営するりんご園の紅玉（こうぎょく）を使用し、ユズを加えて酸化を防ぐアイデアや保存性の高さが評価されたもので、酸味・甘味・鮮やかな紅色が特徴的なジャムとなっています。



山木純子さんと「りんごのみぞれジャム」

育英小学校 “ぼうさい甲子園「はばタン賞」”受賞

学校や地域で取り組んでいるさまざまな防災教育・活動を顕彰する「ぼうさい甲子園」の表彰式・発表会が1月11日（日）神戸市の兵庫県会館で開催され、「はばタン賞」を受賞した育英小学校への表彰や発表が行われました。（はばタン賞：兵庫県の震災復興マスコット「はばタン」にちなんだ賞）

一昨年の豪雨災害では土砂流入などで家屋や公共施設が被災し、全国から多くのボランティアの方々による復旧作業が行われました。このボランティア作業を児童たちが手伝うことがきっかけとなり、育英小学校では「地域に元気と笑顔を届けよう！」と児童たちが仮設住宅の訪問など被災された方々との交流を続け、児童自らができる活動を話し合い、萩市生活応援センターへの支援依頼や地域行事へ積極的に参加するなかで「やればできるんだ」との自信が児童たちの間に芽生えた活動などが顕彰されました。



【1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」】

阪神・淡路大震災の経験を通して学んだ自然の脅威や生命の尊さ、共に生きることの大切さを考える「防災教育」を推進し、未来に向け安全で安心な社会をつくる一助として、児童・生徒、学生が学校や地域で主体的に取り組む「防災教育」に関する先進的な活動を顕彰。今回は、全国から131校の応募となった。

（主催：兵庫県・毎日新聞社など）

◀ 表彰式会場で記念撮影（河上校長・はばタン・山本教諭）

田万川・地域づくり勉強会(人材育成研修会)を開催

1月22日（木）田万川コミュニティセンターで「地域づくり勉強会」が田万川ふるさとづくり協議会の主催で開催されました。

この勉強会は、地域住民が主体となり地域の実情にあった「地域づくり」を考えることで、健康で安心して暮らしていける魅力的な地域の構築と、それを支える人づくりを目的として開催されたものです。

開会后、第1部として片桐一彦さん（島根県海士町社会福祉協議会事務局長）の「人口3千人以下だからできる幸せな地域づくり」と題した講演があり、住民間における情緒的な関係など「つながり」の大切さ、転入者の受入れや地域福祉のあり方など、地域づくりを考えるときのヒントとなるお話がたくさんありました。



「グループワーク」の様子



午後の第2部はグループワークとなり、大きな紙に「地域が幸せになる方法」を書き出し「地域の課題」や「地域の大切なもの」を再認識しました。最後に「自分の大切なもの」について発表が行われ「大切なものを守ること」が「地域が幸せになる方法」などの共通認識は、今後の地域づくり活動への気運を高めるものとなりました。

◀ 熱弁指導の片桐講師

災害復旧工事の着手状況等について

市の管理する河川や道路及び農地・農業用施設など国・県の補助事業となる災害復旧工事については概ね発注を終え、工事の完成に向け事業を進めているところです。着手状況などは下記のとおりです。

■土木・農地等災害復旧工事（補助事業）

区 分	全 体 件 数 A	発 注 件 数		着手件数(完了含む)	
		B	B/A	C	C/A
公 共 土 木 施 設 災 害 復 旧	270 件	268 件	99.3%	209 件	77.4%
農 地 ・ 農 業 用 施 設 災 害 復 旧	474 件	473 件	99.8%	298 件	62.9%
林 業 施 設 災 害 復 旧	18 件	18 件	100.0%	18 件	100.0%

※件数は災害査定の箇所数

(H27.1月末現在)



むつみ地域（吉部上地区：農業用施設）



田万川地域（谷迫川）

「次代に伝えたい 102 人の証言」発行

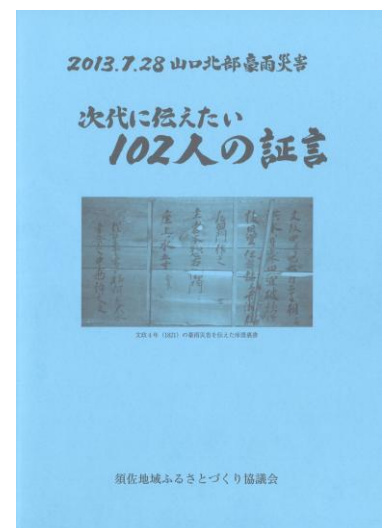
一昨年のもう一つの豪雨災害について、子どもたちの目線、家族や地域住民の被災時におかれた状況など、須佐地域における災害発生時の経験や体験談などを募集し冊子としてまとめ発行されました。

古文書など過去の被害記録とともに「7.28豪雨災害」の経験談などを記録として後世に伝えることは、大災害から身を守り生き延びることへの一助となることを祈念し、須佐地域ふるさとづくり協議会で作成されたものです。

この冊子は、須佐図書館及び須佐公民館に設置され閲覧することができます。誰もが予期しなかった豪雨のなかで起こった出来事から、地域づくりのヒントが発見できることと思います。

※問合せ先 須佐地域ふるさとづくり協議会事務局（須佐公民館内）

TEL 08387-6-2310



冊子の表紙（A4判・89頁）

発行：萩市災害復興局
TEL 08387-6-2214 FAX 08387-6-2218

生活再建支援事業部 TEL 08387-6-2213
都市基盤復興事業部 TEL 08387-6-2215
産業再生事業部 TEL 08387-6-2217

